

Title	編集後記
Sub Title	
Author	松田, 浩(Matsuda, Hiroshi) 副田, 賢二(Soeda, Kenji) 八木, 陽介 田畑
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	1999
Jtitle	三田國文 No.30 (1999. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19990900-0088">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19990900-0088</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 編集後記

◆『三田國文』も今号で三十号となりました。今まで諸先輩方が守り続けてきたこの雑誌を、編集委員の一人として、これから先も引き継いでゆくことを思うと、身が引き締まる思いであります。(松田) ◆最近は近代文学研究の場でも、パソコンを使ったデータ中心の論文が増えたようですが、実際に内容を見ると、ただデータを羅列してそこに常識的で無難な結論を当てはめたものが多いような気がします。やはり重要なのは、論者自身の「創造」への意志だということを再確認する毎日です。

(副田) ◆伊勢と聞けば、僕なんかはまず赤福と思うのですが、こないだ銚子と言えば濡れ煎餅という回路が頭の中にできあがっている人に会いました。「味わう」力は偉大です。阿佐ヶ谷と聞いて焼きそばを思う、おいしい、このごろです。(八木) ◆今号より編集に参加させていただくことになりました。なるべく健康に、なるべく堅実に、なるべく謙虚にを旨としてやってゆきたいと思います。幼少よりスピーチ・自己紹介の類が苦手な私にとって、今後この編集後記執筆が最難関の仕事になります。困惑ぶりにご期待ください。(田畑)

◆『三田國文』三〇号をお届け致します。次号以降への寄稿を随時受け付けております。執筆希望の方は、編集委員又は下記連絡先までご連絡下さい。